



経験の共有・交流

ジャズがつなぐ日米青少年の友情と絆 宮城——ニューオリンズ 青少年ジャズ交流

2005年の大型ハリケーンで甚大な被害を受けた米国ルイジアナ州ニューオリンズ市から高校生を中心とするジャズバンドが来日、宮城県石巻市、気仙沼市、仙台市を訪れ、地元ジュニア・ジャズバンドとの共演や交流の機会をもちました。日米両国の被災地でそれぞれ音楽に取り組む青少年たちが友情と絆を深めました。

ジャズの故郷、ルイジアナ州ニューオリンズ市が2005年に大型ハリケーンで甚大な被害を受けた際、日本から1000万円を超える義捐金が贈られました。その恩返しとして、東日本大震災のわずか1カ月後、津波で楽器や楽譜を流された気仙沼ジュニアジャズオーケストラ「スウィング・ドルフィンズ」の子ども達に真新しい楽器がニューオリンズから届きます。2012年10月、今度は楽器を贈ってくれたニューオリンズの子ども達のジャズバンドが、被災地をジャズで応援するために来日しました。

公演	石巻[石巻ジュニアジャズオーケストラと共演]	2012年 10月7日	石巻まちなか 復興マルシェ
	気仙沼[気仙沼スウィング・ドルフィンズと共演]	2012年 10月8日	気仙沼ストリート ライブフェスティバル
	仙台[多賀城ブライトキッズ他と共演]	2012年 10月9日	仙台市宮城野 区民センター
交流会	仙台[東北学院中学校・高等学校吹奏楽部との交流]	2012年 10月10日	東北学院中学校・ 高等学校
公開報告会	2012年10月11日 会場：東京都新宿区四谷区民ホール		

来日したのは米国ティピティナス財団ジャズプログラムのインターン生によるバンドとオー・ペリー・ウォーカー高校ブラスバンドの計16名。石巻ジュニアジャズオーケストラ、気仙沼スウィング・ドルフィンズ、多賀城ブライトキッズ、東北学院中学校・高等学校吹奏楽部と一緒に日米両国のプロミュージシャンからワークショップを受け、ジャズという共通の言語を通して友好を深めました。宮城県各地で開かれたコンサートでは日米の若きミュージシャン達が復興の願いを込め、「セカンドライン」などを堂々と演奏。総計千人近くに及ぶ地元の観客から盛んな拍手と声援を受けました。その模様は日本全国に報道されたほか、米国でABCニュースのテレビ番組にも取り上げられるなど、広く紹介されました。また、オー・ペリー・ウォーカー高校とティピティナス財団には、日本の復興大臣から感謝状が贈られました。2013年夏には気仙沼スウィング・ドルフィンズがニューオリンズを訪問し、交流はさらに続きます。



ティピティナス・インターンバンド / Tipitina's Intern Band
 有名なサクソ奏者、ドナルド・ハリソン・ジュニア氏が芸術監督を務めるティピティナス財団インターン生によるジャズバンド。同財団のインターンシップ・プログラムには音楽に関心を持つ13歳から19歳までの青少年が参加。

オー・ペリー・ウォーカー高校選抜ブラスバンド /
 O. Perry Walker's Chosen Ones Brass Band
 ウィルバート・ローリンズ・ジュニア氏指導のもと、9～12年生までの生徒による、ニューオリンズ伝統のリズミカルなビートと管楽器のサウンドが自慢のブラスバンド。

石巻ジュニアジャズオーケストラ
 石巻市・東松島市・女川町の生徒たちのジャズオーケストラ。街角に響きわたるビッグバンドジャズによって震災復興に奮闘する石巻地域の人びとを勇気づけようと、2012年6月に結成された。

気仙沼ジュニアジャズオーケストラ「スウィング・ドルフィンズ」
 1993年、気仙沼地方のアマチュア音楽家が子ども達に音楽の素晴らしさを伝えるために創設したバンド。小学5年生から中学3年生の生徒達で編成され、ジャズを中心にポップスやスクリーンミュージックなど、様々なジャンルの曲に挑戦している。

多賀城ブライトキッズ
 多賀城東小学校の鼓笛隊、トランペット鼓隊、金管バンド、吹奏楽部を経て発展した小学生ジャズバンド。宮城県内を中心に活動し、2005年、2006年にはライブアルバムをリリース。東日本大震災後、ニューオリンズから楽器寄贈を受けた。

東北学院中学校・高等学校吹奏楽部
 東北学院中学校・高等学校に在籍する中学1年生から高校3年生までの部員を擁する吹奏楽団。2012年度は吹奏楽コンクール東北大会で金賞を受賞、東日本学校吹奏楽大会に初出場を果たす。



【左上】石巻ジュニアジャズオーケストラ 【上右】気仙沼スウィング・ドルフィンズ 【下】多賀城ブライトキッズ 【前頁】ニューオリンズの高校生と共演する東北学院中学校・高等学校吹奏楽部のメンバー
 この項の撮影すべて：相川健一

共催	日本レイ・アームストロング協会、ティピティナス財団
協力	みやぎ音楽支援ネットワーク、東日本大震災復興支援JFプロジェクト、早稲田大学ニューオリンズジャズクラブ

参加者の声

日本のジャズバンドメンバーから

震災後、仲間のようすがわからなくてとても不安だった時に、楽器を寄贈してもらい、それがきっかけでバンドメンバーが集まることができたことが、大きな励みとなった。
 [中学生のメンバー]

震災で定期コンサートが中止となって、今年はまだ演奏する機会はないのかと思っていた。地元でこのようなステージを用意してもらい、すごく嬉しかった。機会があれば、今度は自分の力で今日会ったアメリカの人達に会いに行き、また一緒に演奏したい。
 [中学生のメンバー]

被災して、身近な人を亡くした辛い体験が心の傷となっている子どもも少なくない。心の底から楽しめるエンターテインメントの重要性は高まっている。震災前には考えもしなかった、ジャ

ズの本場ニューオリンズの人達が我々を助けてくれた、そんな経験は子ども達にとって大変貴重。交流が長く続いて欲しい。
 [指導者]

米国のジャズバンドメンバーから

コンサートは素晴らしかった。災害から立ち直ろうとする人がたくさん来てくれた。演奏でみんなが元気になったように感じた。

被災地の子ども達は僕らがかつて経験した苦難を経験している。希望やインスピレーションを被災地に届けることが出来たと思う。日本から受け取った厚意に応えられたかな。

日本の子ども達は、僕らが大好きな音楽を同じように愛している。演奏のスタイルや曲の解釈は違っても、ジャズを愛しているという点で、僕らは仲間だと感じた。

